



深層水を管に通した地中冷却設備で、ペーパードリップを栽培。右は、深層水をゴーヤーの葉に散布して、収量や品質の変化を観察中。

研究所では、海洋深層水を使ったトラフグやヒラメの養殖も研究中。



「かなが積み切れないんでしょ」
 ホウレンソウやレタスの場合、
 研究所では海洋深層水の地中冷
 却方式で夏場にも安定的に栽培
 できることが実証されている。
 しかし、それだけでは実用化は

難しく、さらに「栄養面で使れ
 ているなどの付加価値をつける」
 ために、たくさんの品種の中か
 ら絞り込み実験を重ねていると
 いう。
 われわれは島の東部の仲里漁

港の一角にある久米島漁業協同
 組合を訪ねた。

久米島漁港への海洋深層水の
 分水開始は昨年秋、ごく最近で
 ある。よそで海洋深層水を鮮度
 保持に使って効果を上げてい
 ることが刺激になったのだ。
 「こちらでは効果は出ています
 か?」

「今のところ好調ですね」
 応じてくれたのは柳原哲也
 組合長。

久米島漁協の組合員は約20
 0名。バヤオ(浮き漁網)を利用
 したマグロの一本釣り漁と、ソ
 デイカ漁が操業の中心だ。「沖
 縄はマグロの隠れた産地」「藤本
 所長」なのだ。

研究所からタンク車で運んだ
 海洋深層水は、そのマグロの冷
 却用に使用されている。
 「ウチとしては、ふたつのメリ
 ットがありますね。ひとつは深
 層水なら短時間で冷却水を作れ
 ること。もうひとつは、劣化し
 にくいので、水を毎日入れ替え
 なくてもいいことです」

マグロ船は出漁のたびに海水
 を保冷庫で冷やし、水槽のため
 におく。換機したらすぐに冷却
 するからだ。通常なら、0度ま
 で冷やすのに24時間以上かかる。

ところが、もともと低温の海洋
 深層水なら、冷やす時間は半分
 もかからない。非常に経済的な
 のだ。しかも、表層水は劣化し

やすいので毎日交換が必要だが、
 清浄な深層水はかなり日持ちが
 する。

今後はソデイカの冷却水やモ
 ズク養殖などにも海洋深層水を
 使用し、町に普及している快給
 バイブの敷設が実現すれば、「い
 ずれ市場で使う鮮度保持用の水
 のすべてを深層水に替えたい」
 との思いがある。

「漁協が大々的に使うようにな
 れば、日本一の1万3000ト
 ンでも足りず、もう一本取水バ
 イブが必要になりますね」
 聞いていた藤本所長が笑った。

温浴効果が高い バイブハウス

「温泉より軽く、さわやか?」
 と思った。

最後に訪ねた美武島の「バイ
 デハウス(久米島)」で、バイブ
 ールに入ってみての感想である。
 バイデハウスとはドイツ語で
 温浴施設のこと。ヨーロッパで
 は海水プールなどを使った海洋
 療法が広く行われているが、日
 本では美穂としてはまだ認知さ
 れていないため、海洋深層水
 を100%使用したバイデハウ
 ス方式の健康増進施設、という
 ことになる。

水着に着替えた私は、屋外で
 サンゴ礁の海を眺めながらジャ
 グジープールにつかたり、ら
 せん形のプールの歩いたり、水



「バイデハウス(久米島)」の平
 島経営人。海洋深層水の
 何が体にいいかの、エビデ
 ンス(科学的根拠)を説明し
 たいと語る。



久米島漁協の柳原組合長。
 久米島近海でのマグロの漁
 獲量が増え、市場での鮮
 度保持にも海洋深層水
 が利用できると期待。